

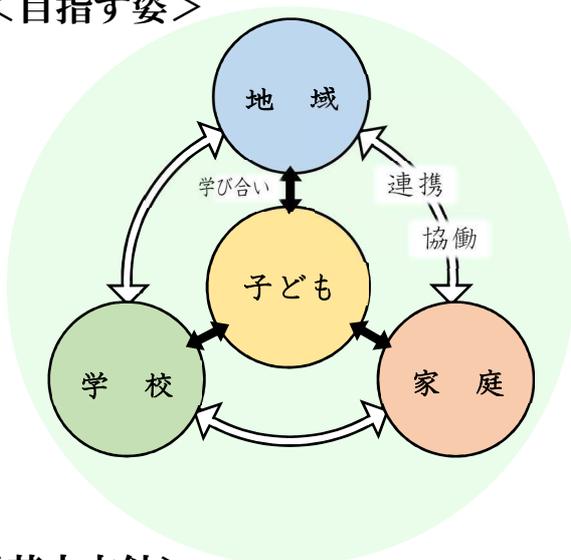
下呂市教育大綱 (令和7年度～令和10年度)

<基本理念> 生きる力や豊かな文化を育みます

大人も子どもも互いに教え学び合い、生涯を通して学び続けることで、社会の変化に適応し、現在と未来をたくましく生きる力を身に付けます。

また、社会を支える地域・家庭・学校などの様々な主体が連携・協働し、下呂市の自然や歴史など豊富な教育資源をもとに豊かな文化を育むことで、誰もがいきいきと暮らせるまちを目指します。

<目指す姿>



《子ども》 地域と触れ合うなかでふるさとへの誇りを持ち、自ら学び、考え、行動できる「子ども」
《地域》 様々な人が関わりを持ち、共に課題に取り組むことで絆を深め、喜びを共有できる「地域」
《家庭》 家族としての責任を自覚し、地域から多様な見方や考え方を学びつつ共に成長し、心豊かに暮らせる「家庭」
《学校》 社会に開かれ、生きるための確かな力を育む学び舎となることで、未来を担う子どもたちの笑顔があふれる「学校」

<基本方針>

《学校教育》ふるさとを誇り、未来に向かってたくましく生き抜く子どもを育みます
・こども園、小中学校、家庭、地域との強い連携で、子どもたちを育てます。 ・互いの個性を認め合い、誰もが「存在感」を感じられる学校づくりを行います。 ・安全・安心で、自己の良さを発揮できる学習環境をつくります。
《社会教育》地域で子どもの成長を支えながら、ともに学び豊かな心を育みます
・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進し、地域を担う人づくりに取り組みます。 ・青少年団体やボランティアの活動を支援し、青少年の健全育成を推進します。 ・保護者の学びの機会やつながりを生み出す場を提供し、家庭教育を支援します。 ・学びの機会やネットワークづくりのきっかけを提供し、生涯学習を推進します。
《歴史・文化》受け継がれてきた歴史と文化に対する市民の誇りを育みます
・地域の文化をつなぐため、民俗行事や伝統芸能の伝承を支援します。 ・文化的価値の理解を広めるため、すべての人々が歴史や文化に触れる機会を提供します。 ・文化財を次世代につなぐため、適正な保存管理を図ります。 ・文化・芸術に親しむ機会を創出するため、文化・芸能活動の推進と文化団体等の交流・継承活動を支援します。
《スポーツ》誰もが生き生きと楽しみながら運動に参加できる環境を整えます
・スポーツが好きな子どもを増やすため、運動の習慣化に向けた環境を整備します。 ・生涯スポーツを推進するため、誰もが気軽にスポーツを楽しめる機会や場所を整えます。 ・地域のスポーツ機会を維持するため、スポーツ施設を区分し、中核施設の長寿命化・競技環境の充実を図ります。

「下呂市教育大綱」の策定にあたって

＜基本理念＞について

グローバル化、少子高齢化、そして絶え間ない技術革新など、社会構造が大きく変化し続ける現代において、私たちは予測困難な未来に直面しています。今、「生きる力」を学び身に付けるべき主体は「子ども」だけではなく、こうした社会に的確に対応していくため、「大人」も同様に生涯を通じて学び続けることが求められています。下呂市には、歴代の教育長の間次のような言葉が引き継がれています。

“間違いだらけの教師が間違いだらけの子どもを教える。それが教育だ。間違いの自覚がない教師は間違いを繰り返す。間違いを自覚する教師は絶えず学び続ける。間違いの自覚が尊敬される教師へと誘う”

この言葉は、児童生徒の前に立つ教師としての心構えを示したものであり、常に学び続けることが教育に携わる者に求められているということ、また、子どもの間違いという人間形成の重要な過程に教師は心して正対し、子どもにどんどん挑戦させ、一人ひとりが秘めた可能性を引き出してあげたいという思いが込められています。

こうしたことは、学校における教師と子どもの関係だけでなく、広く大人と子ども全般に当てはまることでもあります。これまで一般的に、「学び(教育)」＝「学校」という見方が強くありましたが、これからの時代、教育は学校だけで成し得るものではなく、豊かな学びのためには、社会を支える様々な主体がそれぞれの役割のもとで連携・協働していくことが必要です。下呂市には他に誇るべき豊かな自然や長い歴史、伝統文化があります。こうした豊富な教育資源を背景に、地域、家庭、学校などがともに力を合わせて豊かな文化を育むことで、市民の誰もがいきいきと暮らせるまちを目指していききたい。基本理念には、そうした思いが込められています。

＜計画期間＞について

上位計画である第三次総合計画の基本計画の期間に合わせて4年間としています。

＜目指す姿＞について

基本理念に基づき、《子ども》、《地域》、《家庭》、《学校》が目指す方向性を記載し、これらの関係性を、下呂市の豊かな自然や歴史などの豊富な教育資源を背景として、子どもと大人(地域、家庭、学校)が相互に学び合い、連携・協働する姿として図示しています。

- 《子ども》 地域・家庭・学校との触れ合い・学習を通じて様々な体験をすることで、次第にふるさとを誇りに思う心を培い、たくましく生きていくために最も基本となる「自ら学び、考え、行動する力」を身に付けてほしいという願いを込めています。
- 《地域》 個を大切にする風潮が高まる昨今、自分のことだけを考えるのではなく、様々な人と関わり・つながりを築き、ともに地域を取り巻く課題に取り組むことで互いに絆を深め、その結果生まれる喜びや達成感を共有できる地域になってほしいという願いを込めています。
- 《家庭》 子どもの保護者や家族としての責任や役割を自覚し、同じく個を大切にする風潮が高まるなかにあっても、地域社会と触れ合うことで多様な見方や考え方を学び、結果として心豊かに暮らせる家庭になってほしいという願いを込めています。
- 《学校》 地域・家庭に対して積極的に働きかける開かれた学校として、生きるための確かな力を身に付けさせるという、学校としての本来の役割をしっかりと果たしながら、子どもたちにとって楽しく、笑顔となれる場となることを目指すという意味を込めています。

＜基本方針＞について

「基本方針」は、教育大綱の基本理念の実現に向けて、市が行う各種施策の方針を示すものです。《学校教育》、《社会教育》、《歴史・文化》、《スポーツ》の4つの基本方針を柱とし、その柱のもとで具体的に取り組んでいく施策を記載しています。

一つひとつの事業をここで詳しく説明することはありませんが、それぞれの取り組みについては、毎年度、市として取り組んだ成果や効果等を検証し、必要に応じて見直しを行う、計画(Plan)、実行(Do)、検証(Check)、改善(Action)の、いわゆるPDCAサイクルにより、よりよい取り組みを模索しながら着実に推進していくこととしています。